

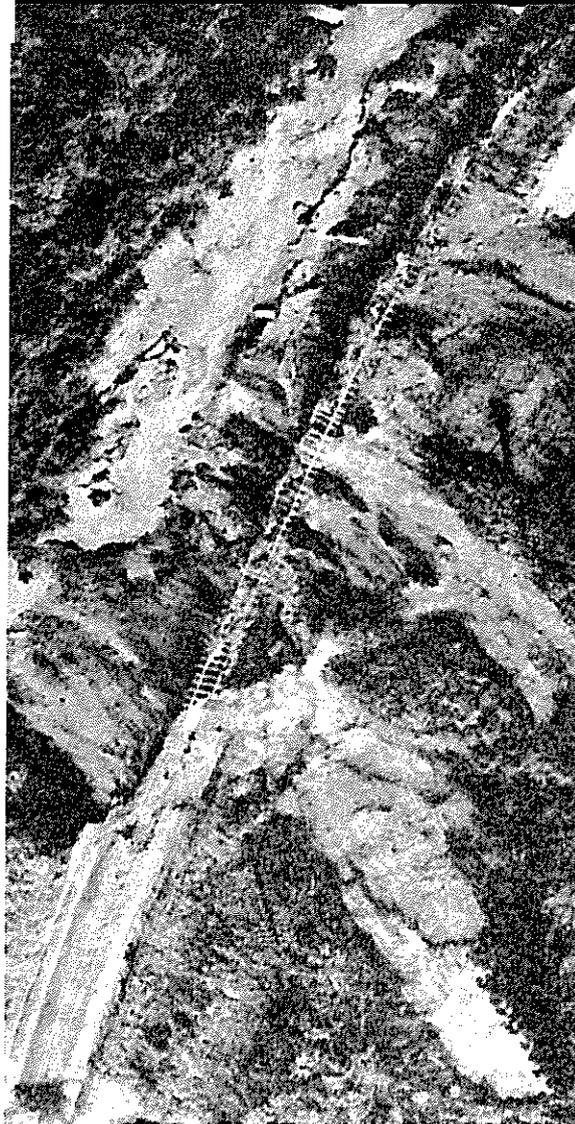
An aerial, black and white photograph showing a large-scale disaster. The terrain is heavily damaged, with large areas of debris and destruction. In the lower-middle section, a large, rectangular building, possibly a school or government building, is visible, appearing partially collapsed or severely damaged. The surrounding landscape is a mix of dark, charred areas and lighter, possibly snow-covered or ash-covered ground. The overall scene conveys the scale and impact of the disaster.

昭和28年

大災害をふりかえる

あの日あの時の記録

京都府



▶ 山くずれによってなわはしごのようになった
関西本線(大河原村(山城町)毎日新聞社提供)

———蜷川知事のことば———

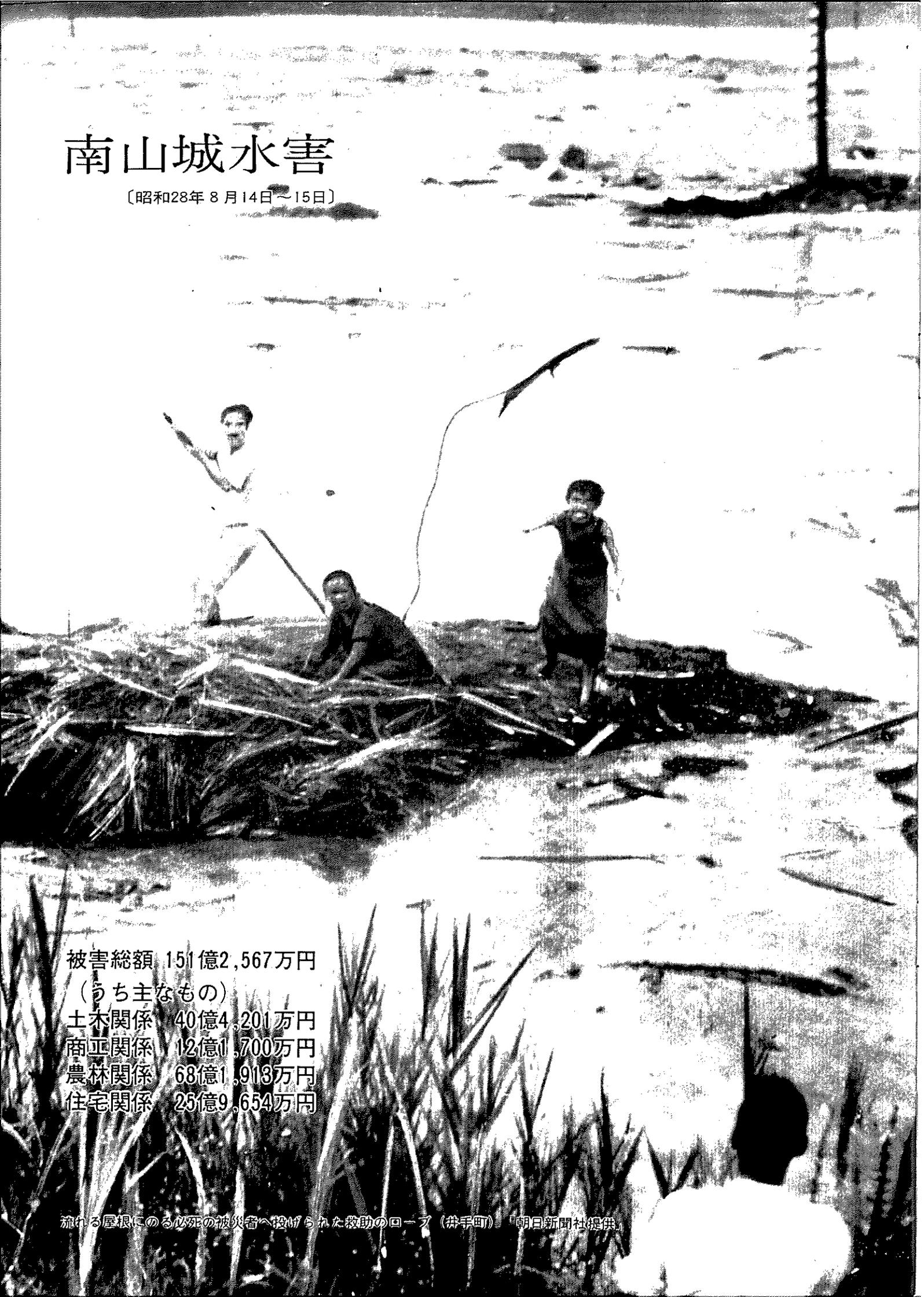
とにかく先づ第一に、災害を未然に防ぎ得るような体制をつくるために、今後災害復旧の財政的措置についていろいろと努力し、単に財政的な事情からのみで、住民を危険にさらすことがないように努力をしたいと思えます。

たとえ財政に赤字を出すようなことがあっても災害により人が死んだり、家が流されたりすることがないようにするのが、自治体をあづかるものの責務なんです。

(土木工営所長会議でのあいさつから)

南山城水害

〔昭和28年8月14日～15日〕



被害総額 151億2,567万円

(うち主なもの)

土木関係 40億4,201万円

商工関係 12億1,700万円

農林関係 68億1,913万円

住宅関係 25億9,654万円

流れる屋根にのる必死の被災者へ投げられた救助のロープ (舟手町) 朝日新聞社提供



写真(右)被災地あとで、しょう然と小犬を背おう坊や(和束町)
写真(左)泥の湖となった被災地に倒壊した家屋の流失物で埋まった井手町玉水附近-朝日新聞社提供



水害

巖喜郡井手町立泉ヶ丘中学校一年 加賀山 綾子
(昭和二十八年当時)

楽しい盆が近ずいて来たので、照ちゃんや喜美ちゃんは喜こんでいました。私もお母さんに赤塗りのよい下駄を買ってもらったので、明日早速はこうと思つて、頭の上に置き、すやすや寝むつてしまいました。

突然、サイレンが鳴り、よその人が「起きよう！起きよう！」と叫びながら走って行きました。(中略)

窓から「もうやむだろう。」と見ていると、可愛い三つの志津子が、「ねえ、見せて」といつて私の所へ来ました。私は抱いて見せてあげました。志津子はまだ三つなので手をたいて喜こんでいました。

(義)姉さんは、まだ三日目の赤ん坊を抱いていました。

志津子は、おかあちゃんの所へ行きました。

(中略)

外をみている瞬間「パリックパリック」とひっくり返りました。「お母さん！お母さん！」と、呼んでみましたが、誰の返事もありません。

天井が落ちて、柱や壁にはさまれ、もう私は「これでしまいだ！」と、自分で自分に言い聞かせました。目をあげると、もう外に流されてしまいました。(中略)

お母さんのことが心配です。お母さんはどこへ行つたのだろう？よその人が「お母さんは？」と尋ねると、もう胸が一杯でものも言えません。

照ちゃんや喜美ちゃんもまだわかりません。三つの志津ちゃんは、お母さんにおぶってもらっています。

一番先に、照ちゃんがわかりました。照ちゃんといつても、もう水でふくれているのでわからない程です。兄さんは、照ちゃんを焼き場へ行く自動車について行きました。(中略)
それから二日、三日たつと、多賀のもとを



さんが泣きながらかけつけて来ました。「おかあちゃんがわかった。志津子をおぶって多賀であがらはった。」と、もとをちゃんは泣きながら語りました。

私はもう気がいのようになって、「お母さん！お母さん！」と、心の中で叫びました。

「もう二度とお母さんの顔が見られない！！」

「こんなになるのだったら、私もいっそのこと死んでしまった方がよかった！」お母さんのお骨箱を抱いて泣き叫んだ。(中略)

やっとのことで喜美ちゃんがわかりました。もう先に出ていたのですが、余りふくれていたので、十二、三に見えていたので埋めてあったのです。(中略)

ちゃんと並んだ四つのお位牌に「こんな水が無かったら、こんなことにならなかったのに！！」「お母さんさえてくれたら！お母さんさえてくれたら！」と、私は毎日お母さんの顔を思い浮かべ、楽しく一緒に京都へ遊びに行ったことや、暑い中を一緒に畑へ行ったことを思い浮かべているうちに、涙が出てきました。(後略)



柴田綾子さん
(旧姓加賀山)



池になった被災地を船で通学する学童たち(加茂町)



無惨にこわれた校舎(井手町)

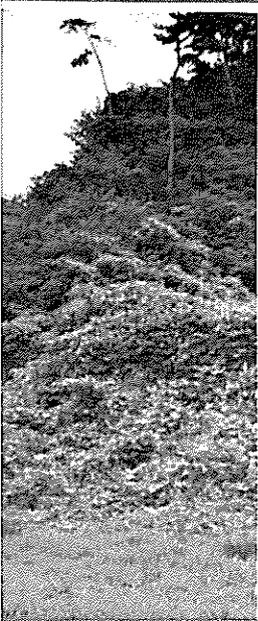


綺田と平尾の両側の堤防が決壊した不動川(山城町)「毎日新聞社提供」

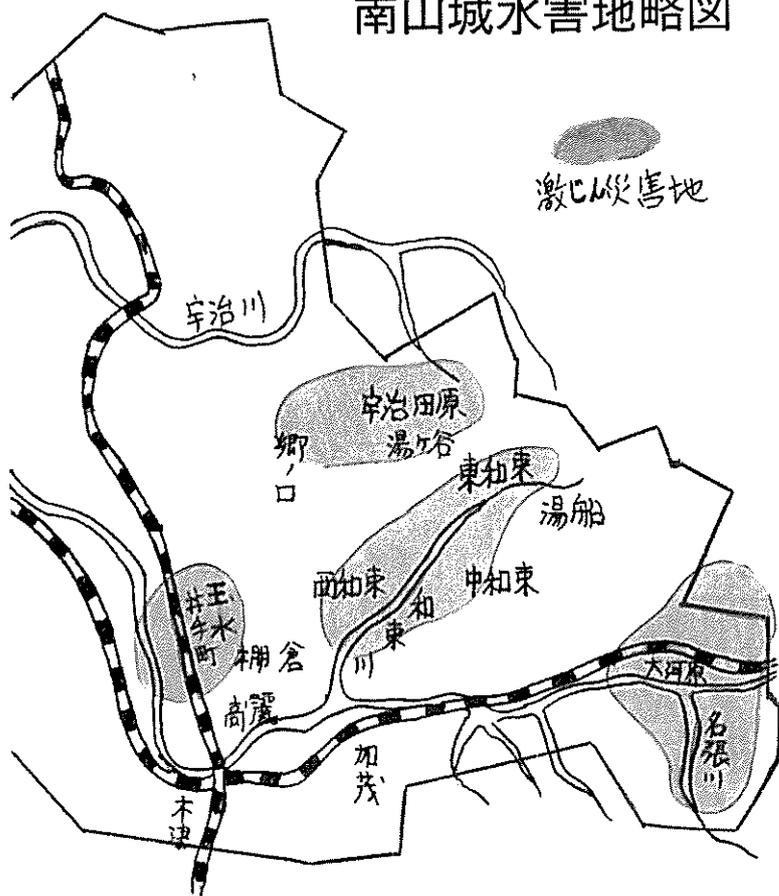
写真上は井手町玉水に
大惨事をもたらした大
正池の魔の決壊口
写真下は重カダム方式
で装いもあらたに堅固
となった大正池



写真上は流失した無惨な姿の玉水橋
写真下は新しく架設された玉水橋(井手町)



南山城水害地略図



田原川の氾らんで倒壊した住宅（宇治田原町）



和束川の氾らんで和束村の中心地が木津川に流失（和束町）

南山城水害被害状況調

昭和28年9月15日現在

状況		地区	乙訓	宇治	綴喜	相楽	合計	
罹災者総数		人	-	2,179	14,661	11,336	28,176	
人的被害	死者	"	-	-	117	104	221	
	行方不明	"	-	-	18	97	115	
	重傷	"	-	-	61	89	150	
		軽傷	"	-	-	483	733	1,216
	合計	"	-	-	679	1,023	1,702	
住宅の被害	全壊戸数	戸	-	-	182	189	371	
	流失戸数	"	-	2	171	208	381	
	半壊戸数	"	-	1	277	276	554	
	浸床戸数	"	-	20	1,180	399	1,649	
	水浸床戸数	"	-	430	979	1,212	2,721	
合計	"	-	603	2,789	2,284	5,676		
非住宅の被害			-	2	941	1,100	2,043	
田畑の被害	田	流失埋没	町	-	5	288	658	951
	田	冠水	"	248	370	1,635	4,575	3,828
	畑	流失埋没	"	-	17	105	309	431
	畑	冠水	"	5	20	147	271	443
	合計	"	253	412	2,375	2,813	5,653	
道路決壊		町	-	12	1,174	1,155	2,341	
橋梁流失		"	-	3	161	166	330	
堤防決壊		"	-	22	1,512	640	2,174	
鉄道不通		"	-	1	2	6	9	



台風13号災害

〔昭和28年9月24日～25日〕

被害総額 560億3,551万円

(うち主なもの)

土木関係 114億4,110万円

商工関係 128億5,768万円

農林関係 133億3,812万円

住宅関係 168億6,663万円

福知山市新町通りに積まれた水害あとのガレキの山。京都新聞社提供。



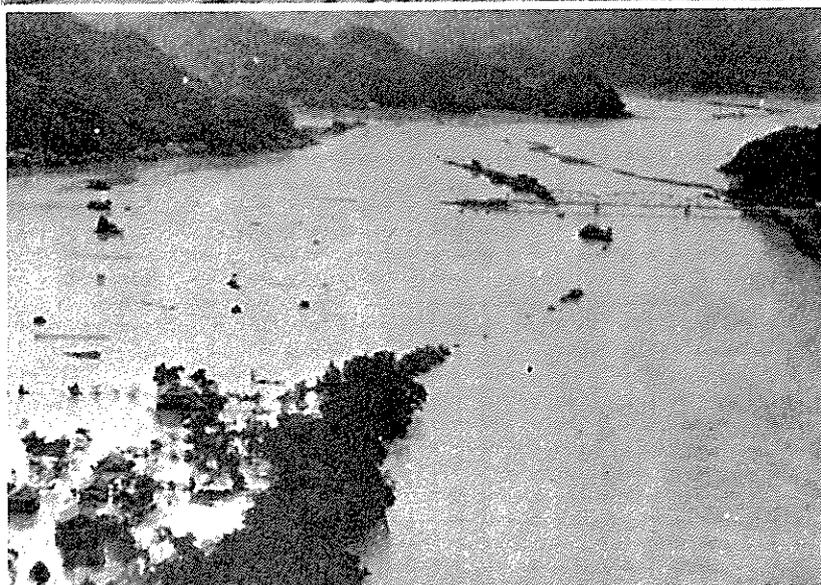
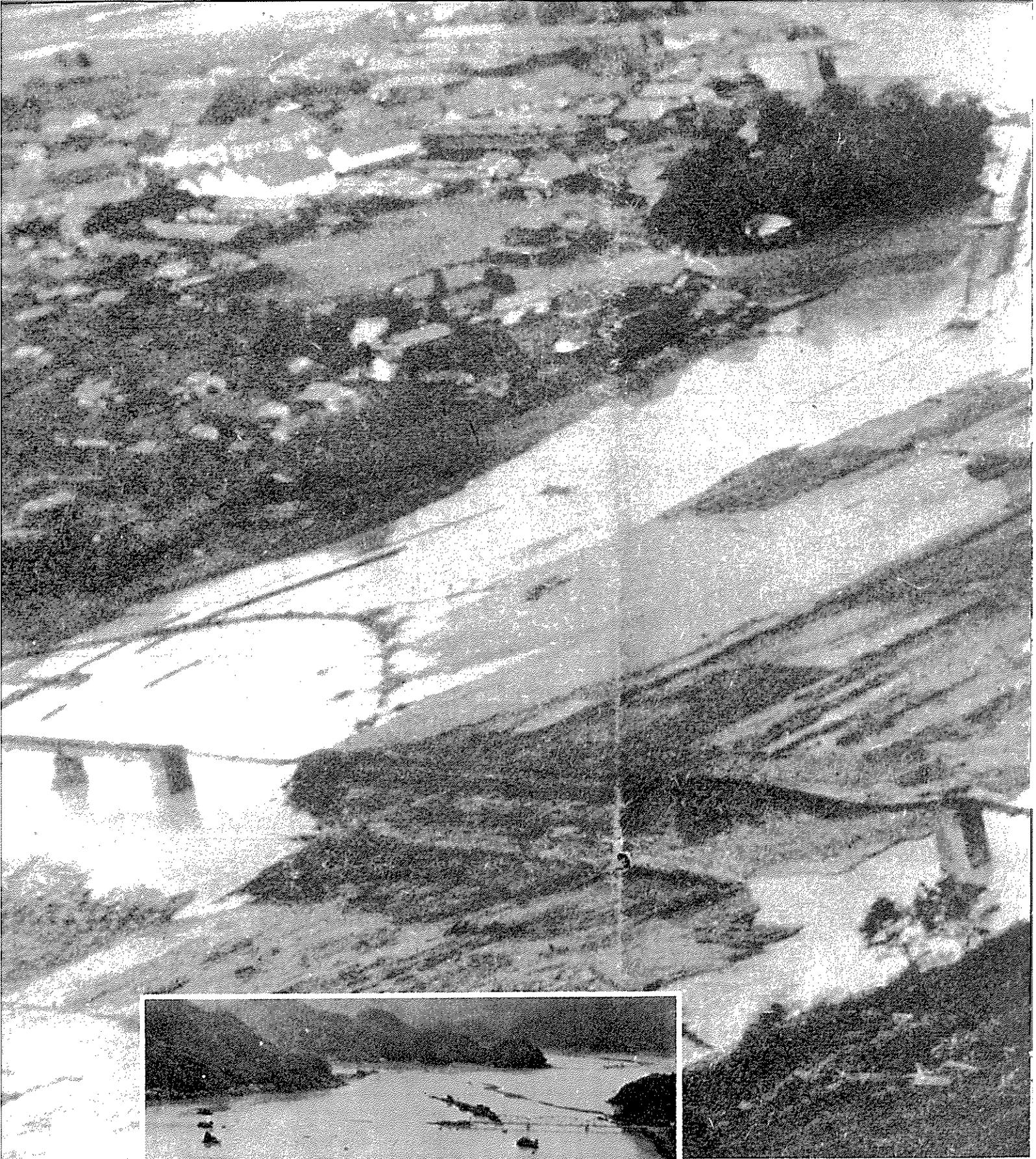
▲ 水魔が去ったあとの由良川の惨状（左端は綾部市、破損した鉄橋は舞鶴線）

由良川と洪水

町の歴史は、洪水とのたたかひの歴史であったと言える。古来、それは毎年の行事のように、ときには二度、三度と町を見舞い町民の困窮はその極に達した。

しかし、昭和38年以來、由来川の本格改修によって、これらの常襲水害はいまや昔の語り草になろうとしている。そのことは私たちに、明日への期待と、新しい希望を与えるのである。

（大江町誌より）



▲ ようやく減水をはじめた由良川（前方の橋は濁流に洗われた大川橋）

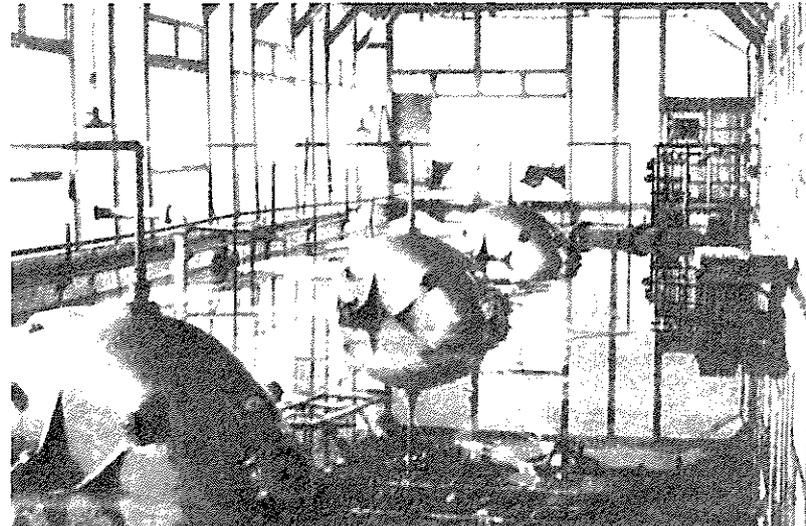
府下全域にわたった 13号のツメ跡



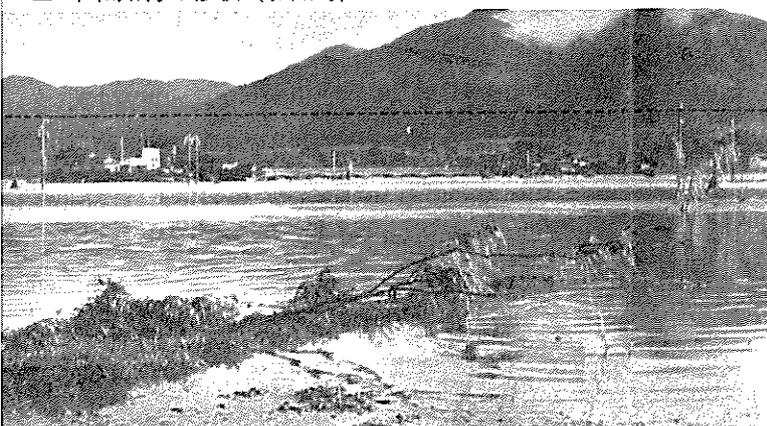
▲ 舞鶴市の目抜通りにある橋、真中から折れた



▲ 下和知村の惨状 (和知町)



▲ 八幡町の排水場も湛水



▲ 桂川の氾らんで一面湖水となった亀岡町附近 (亀岡市)



▲ 氾らした野田川 (山田村から石川村を望む) (野田川町)



▲ 犬川の決壊で浸水した勝龍寺部落 (長岡京市)



▲ 流出した木株が水田をおおう山国村 (京北町)



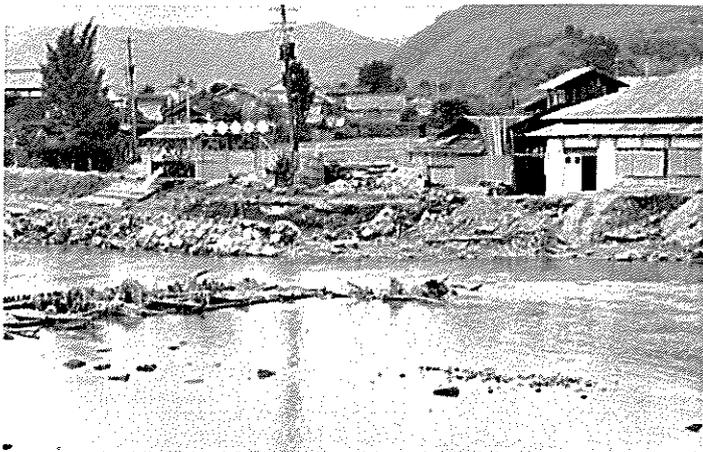
▲ 濁流うつまく嵐山渡月橋附近「京都新聞社提供」



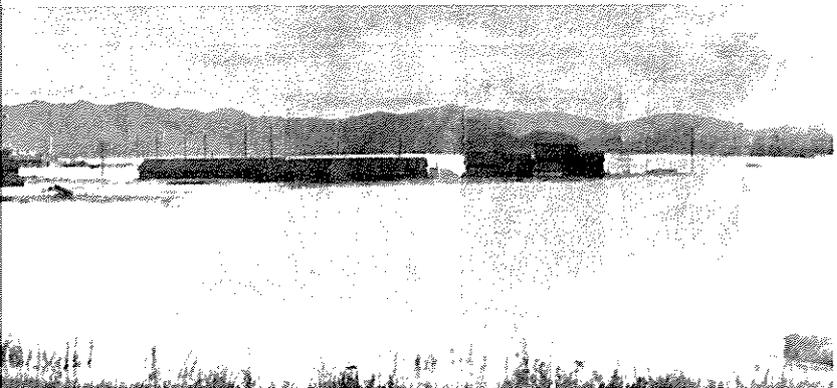
▲ 豊里村の惨状（綾部市）



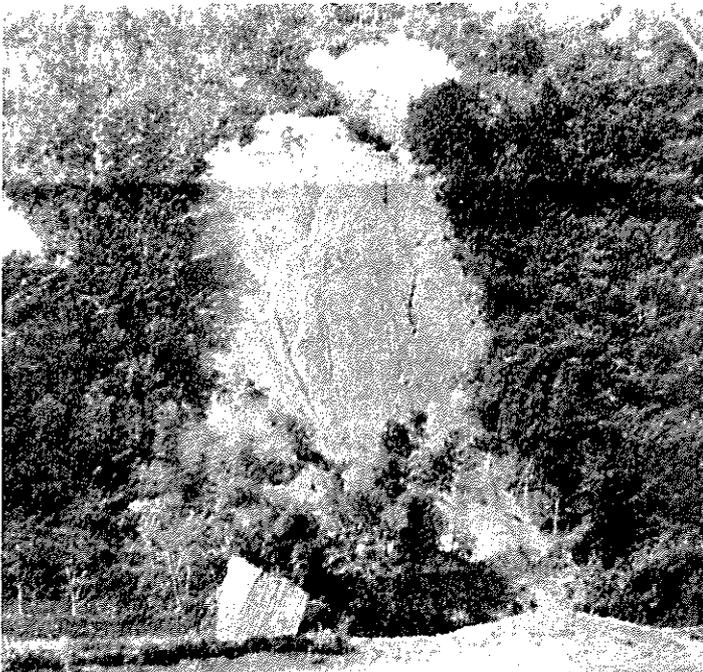
▲ 水禍のダブルパンチを受けた井手町



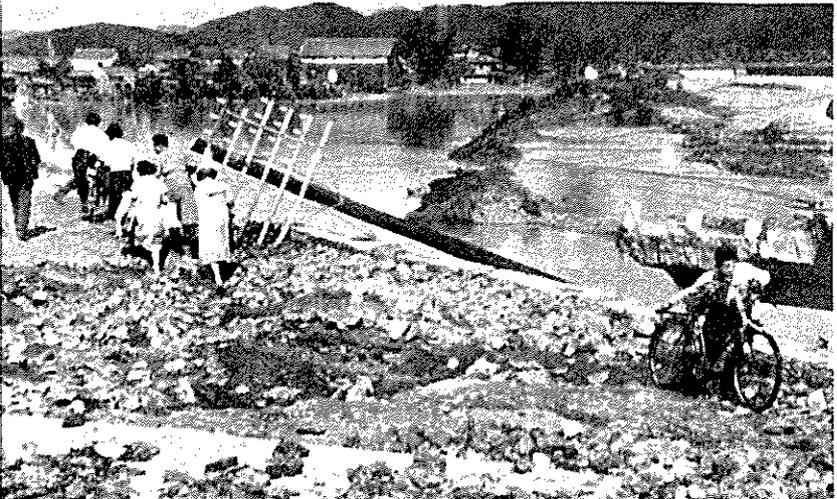
▲ 流失した園部川井堰、(園部町)



▲ 大きな泥海と化した巨椽干拓地（京都市伏見区、宇治市）



▲ 山崩れにより露出した山肌、世木村（日吉町）



▲ 水禍により決壊した堤防と荒れた国道（八木町）



▲ 大雲橋にかかった流木の山（大江町）

京都府南部に豪雨禍

死者百四十一人に達す
井手大河原全町村流失
大正池決壊はん溢
井手町 時にしく成

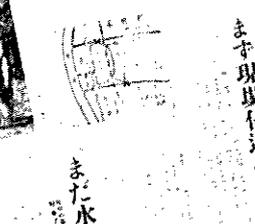


あゝ眼られぬ
肉親失い坊やの叫び

悪路おかし救援

南谷川堤防を切開

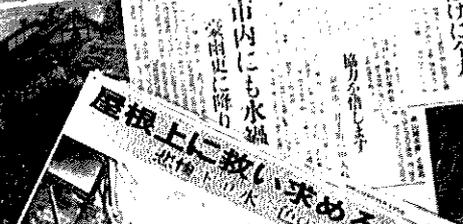
井手町玉川の排水強行



けさ作業開始
まず現場付近を補強

全府あげて水害復旧へ本腰

衣類を現地へ急送
上水地域の水はけに全力
協力な作しす



屋根上に救い求める人々
川の氾濫

市内にも水漏
豪雨更に降り

台風13号の
被災地に給う

京の各河川はん溢

近畿東海の被害大
分裂してけさ、陸沖へ

府下各地に豪雨禍

水中に大江町
舟艇代りに木箱

宇治川
本堤の切断
御幸橋付近で着

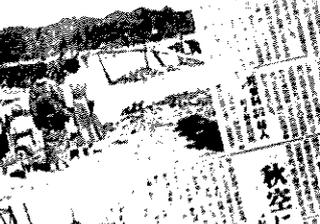
宇治川
本堤の切断
御幸橋付近で着

宇治川
本堤の切断
御幸橋付近で着

宇治川
本堤の切断
御幸橋付近で着

嵐の口を突けた大正池

奔流の跡も生々し
杉の森し根



救援物資も到着

空から伝ハ

列なす救援車
減水にホッとし息

激雨ヒラを配給

道路開通に全
湯船和

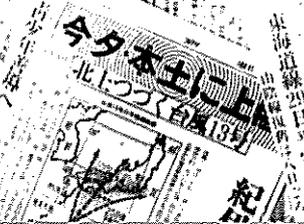
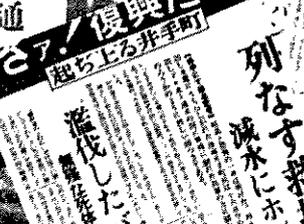
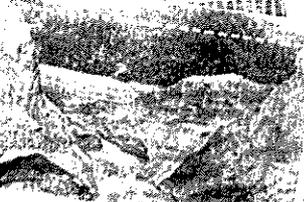
食糧を空車

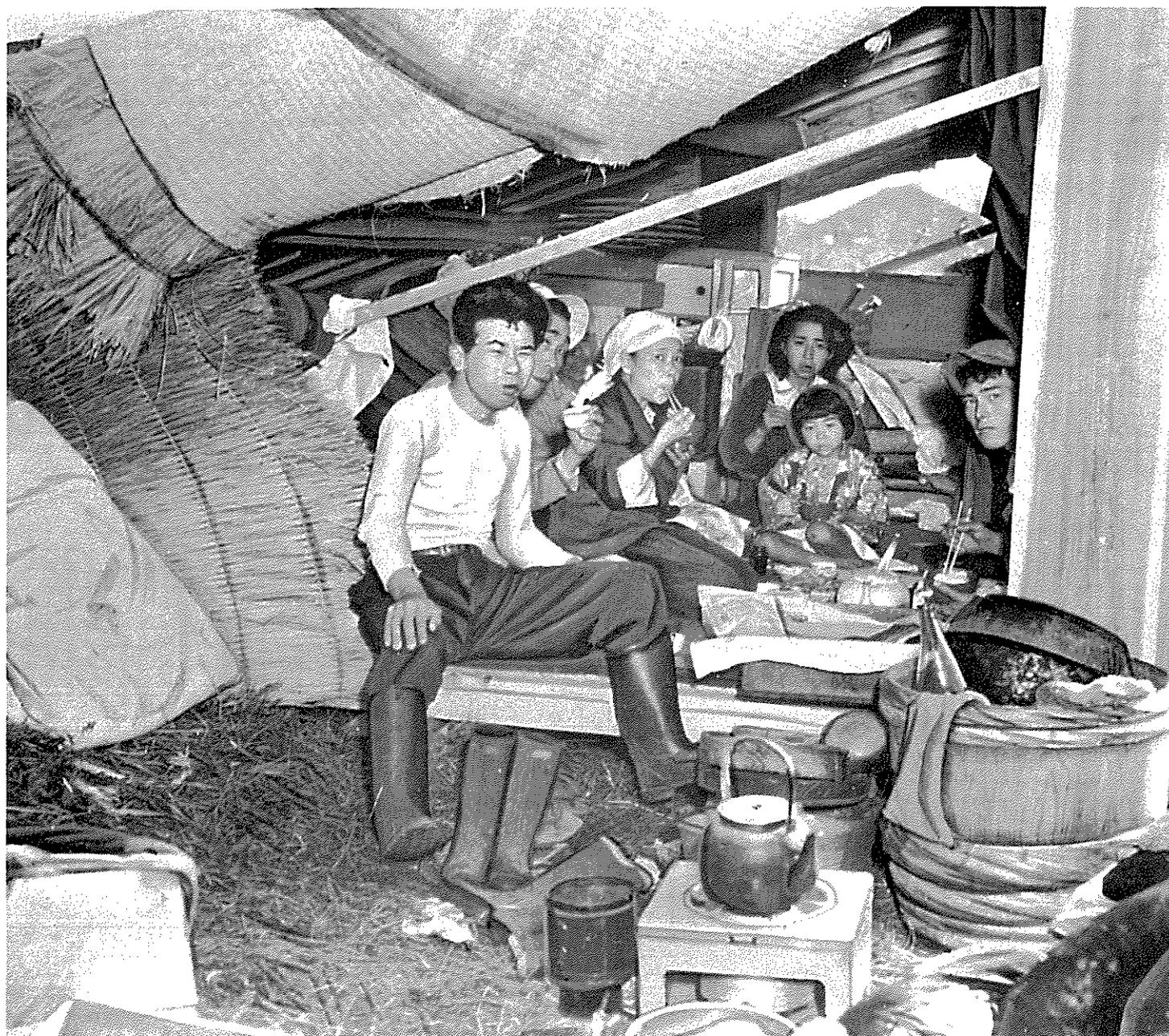
復旧も急がれた

激雨

本堤の切断

舟艇代りに木箱



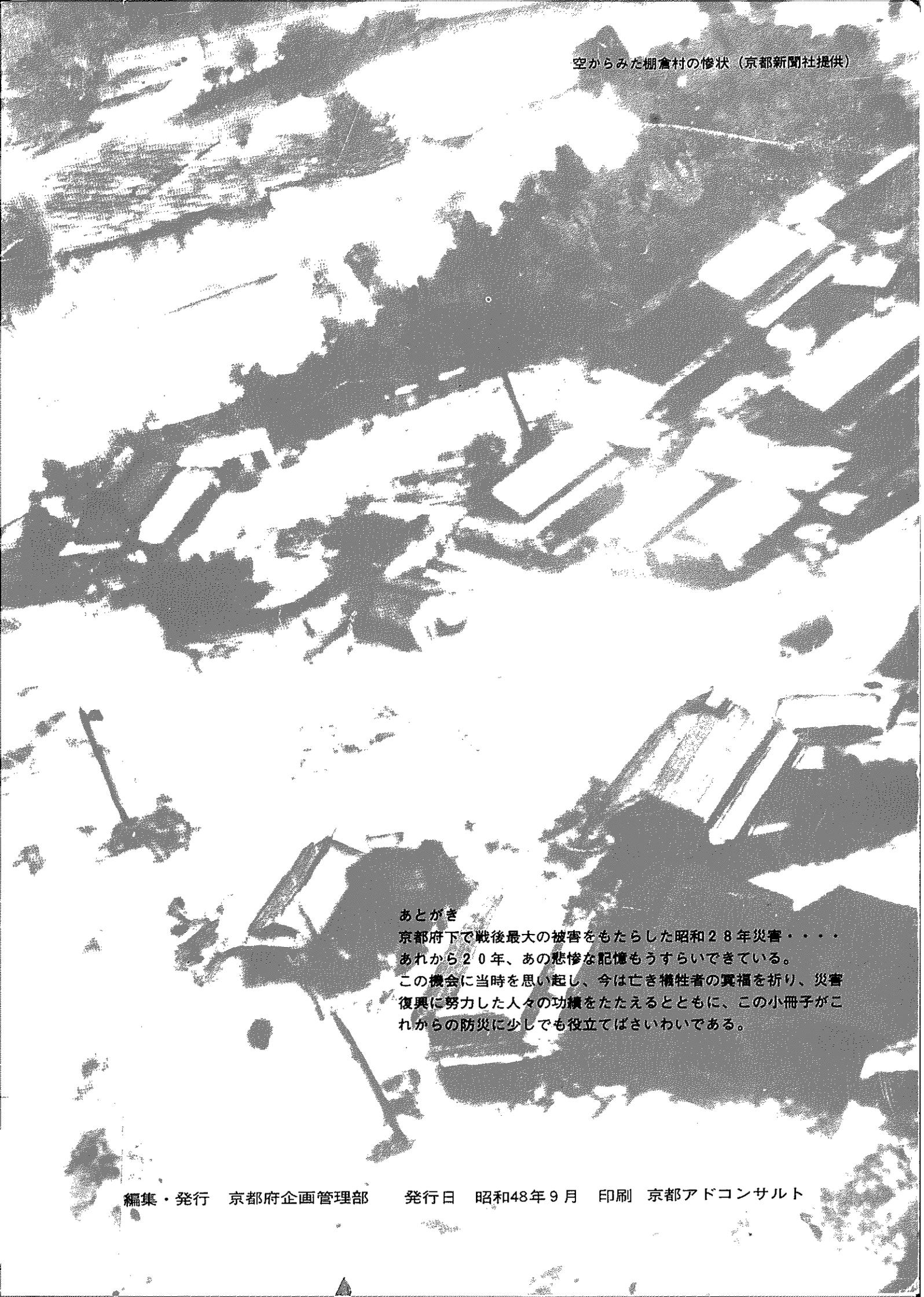


▲ 傾いた家で家具に埋まり食事をとる被災者 宇治川決壊附近「京都新聞社提供」



▲被災地をつぶさに見る蜷川知事、湯船村（和東町）

防災は、ひとりの「いのち」を大切にすることから始まる

An aerial, black and white photograph showing a village that has been almost completely destroyed. The remaining structures are skeletal remains of buildings, with many roofs missing. The landscape is a mix of dark, charred earth and lighter, possibly ash-covered or overgrown areas. The perspective is from directly above, looking down on the devastation.

空からみた棚倉村の惨状（京都新聞社提供）

あとがき
京都府下で戦後最大の被害をもたらした昭和28年災害・・・
あれから20年、あの悲惨な記憶もうすらいできている。
この機会に当時を思い起し、今は亡き犠牲者の冥福を祈り、災害
復興に努力した人々の功績をたたえるとともに、この小冊子がこ
れからの防災に少しでも役立てばさいわいである。